府中市立諸田小学校　研究構想図

学校教育目標

生き生きと学び、意欲的に活動する子を育てる

（強く　　正しく　　美しく）

研究主題

「直接体験を重視した理科教育を通して

科学的思考力を高める」

研究の仮説

1　多様な見方・考え方を出し合い認めあえば、科学的思考力を高めることができるであろう。

2　直接体験を重視し予想を立てて筋道を立てて考えさせ、科学的な手法で調べさせれば論理的思考力を高めることができるであろう。

3　周りの自然と直接関わることを通して感動体験を持たせば、自然を愛する心情を育てることができるであろう。

4　思考過程を表現するキーワードになる言葉を大切にし、自分の考えを説明する場を十分に設ければ、確かに表現する力をつけることができるであろう。

研究内容

1　問題解決型学習を基本とし､直接体験を重視した学習の工夫。
2　興味・関心を高める教材・教具の工夫。
3　個の考えを生かす場の設定
4　思考過程のわかるノートの指導の実践と交流を行う。
5　板書や掲示の工夫により学習の足跡を残す。
6　思考過程を表現する言葉を整理し、学年に応じて重点を決め指導する。
7　自分の考えを説明する場を設定する。
8　伝えあう技能･技術を活用し表現させる。

検証方法

◇・学習課題が明確になる授業の導入
・児童の意識調査における「自分の考えを持つ事ができる」児童の割合
◇・「創るノート」の指導実施
・児童の意識調査における「自分なりの考え」についての回答者の割合。
・理科ＣＲＴ
◇・児童意識調査「算数・理科が好き」と答える児童の割合
・発言内容

検証の指標

◎　・課題が明確になる導入の工夫実施率１００％
・教材・教具の工夫を単元ごとに行う８０％以上
・児童の意識調査における「自分の考えを持つ事ができる」児童の割合を１００％にする。
◎　・「自分の考えをノートに工夫して書くことができた」と答える児童の割合９０％以上
・ノート指導を週３回実施する。
・全児童が理科ＣＲＴで科学的思考力の平均以上
◎　・キーワードの言葉を用いて表現する児童の割合７０％以上
・「わけを明らかにして説明できた」児童７０％以上
・言語技術活用の指導実施率１００％

科学的思考力の育成

・一人一実験
・思考過程がわかるノートつくり

知的探究心の育成

・　教育資源活用
・　授業導入の工夫

自然を愛する心の育成

・自然・事物の教材化

自ら学ぶ力の育成

・授業改善での意欲付け
・理科コーナー・おもしろ実験

・主体的に学ぶ力の育成
・放課後寺子屋の充実
・家庭学習の方法

・ふちゅう西学園
小中一貫教育

・ことばの教育の推進
・読書活動の充実
・道徳・総合的な学習
キャリア教育

学ぶ喜びのある授業の創造（知）

科学的な見方・考え方を育成
知的好奇心・探求心を高める
（教材教具の工夫）
多様な見方・考え方を育成

体力づくりの推進（体）

食教育・基本的生活習慣
サーキットトレーニング・
駆け足・一輪車

感謝・かかわりあい

友だち大好き

笑顔いっぱい　夢いっぱい

かかわり合う・感謝の心の育成（徳）

道徳教育の充実
ふれあい活動（自然・人）
キャリア教育の推進
他校との合同学習実施

総合的な学習の時間

地域の自然探検活動
教育資源を活用した学習
英語活動
探究活動